

# 守谷正人

もりや まさと

2010.5  
【県政報告】Vol.08



前原誠司国土交通大臣と共に



福岡県政を少しでも身近に感じてもらうために各地で報告会を実施しています。



地方分権推進対策調査特別委員会の副委員長として挨拶を行う。



県議会の議会傍聴にお越しください。私がお案内いたします。



オリンピック女子柔道 銅メダリストの日下部基栄さん(福岡出身)と一緒に。



参議院 厚生労働委員会の小林正夫理事(電力総連出身)とガッチリ握手。



常任委員会で北九州市にある工場を訪問し、地域産業の景気と雇用の状況を視察。



委員会で大阪府議会を訪問し地域主権について意見交換を行う。



県職労の駅伝大会では県議会を代表して参加し無事完走を果たす。



さざなみ作業所のパザーにボランティアとして参加してお手伝いしました。

## 近況報告 樋井川緊急浸水対策決定!

多くの地元の皆さんからの声やと実現する事となりました。

樋井川では昨年7月の「中国・九州北部豪雨」によって、城南区に甚大な被害をもたらしました。私は豪雨当日、城南区の避難所に指定された3箇所の公民館を訪ね、被害状況の確認と支援活動を行いました。

県議会議員となって3年が経過しましたが、常に「樋井川の総合河川改修」を知事に訴え続けて来ましたが、その結果、今議会で麻生知事は私の要望に応え、今後5年間で樋井川の総合河川改修(護岸補強と河床浚渫等)を実施する事を表明しました。

同時に国土交通大臣に対しても緊急且つ集中的な河川整備を行う「床上浸水対策特別緊急事業」の適用を強く要望した結果、今回事業実施の決定となりました。(この事業の採択は全国でも福岡県の2河川のみとなっています。)

今後も城南区の皆さんが安心して暮らせる街づくりを目指し、全力投球して行く所存であります。引き続きご支援賜りますよう宜しくお願い致します。



福岡県議会議員 守谷正人

## 樋井川床上浸水対策特別緊急事業

～地域の住民の安全で住みよい暮らしを守る河川整備～

平成22年度より床上浸水対策特別緊急事業に着手し、概ね5年間で緊急かつ集中的な河川整備を行う事により、浸水被害の軽減及び再度災害防止を図ります。

- 事業延長: 5.9km(ふれあい橋から樋井川橋付近)
- 全体事業費: 約36億円(国50%負担)
- 事業執行体制: 管轄の福岡県土整備事務所に専任の担当部署を設置

### PROFILE

昭和40年6月21日/福岡市生まれ  
昭和59年3月/西南学院高等高校卒業  
平成元年3月/西南学院大学商学部商学科卒業  
平成元年4月/近畿日本ツーリスト(株)入社

平成8年10月/衆議院議員秘書(国会内)  
平成16年12月/(株)九電ビジネスフロント入社  
民主党 福岡県第2区総支部幹事長  
新社会推進商工委員会委員  
地方分権推進対策調査特別委員会副委員長  
福岡県議会文化議員連盟幹事  
九州電力総連組織内議員

〒814-0104  
福岡市城南区別府6-2-10  
TEL 092-851-3679  
FAX 092-851-3670  
e-mail: macmac0621\_1965@mail.goo.ne.jp  
HP: http://moriya-masato.info/



# ◆樋井川の河川総合改修について

Q.「河川整備基本方針」等の策定について

平成20年度末現在、本県が管理をしている2級河川の区間延長1910kmに対する整備率は僅か5割程度というとても低い水準。現在樋井川には河川法に示されている河川整備基本方針と「河川整備計画」の双方がまだ策定されていない。今後、災害予防の為に、樋井川において「河川整備基本方針」等の策定が必要ではないか。

A.平成9年に定めた工事実施基本計画に基づき管理を行っているが、昨年7月豪雨を考慮した総合的な治水の考え方を導入した基本方針策定に向け取り組んでいる最中である。河川整備計画についても基本方針策定後、速やかに作業を行っていく。



何度も樋井川を訪れその問題点を調査する。

Q.来年度の樋井川の整備について

河川での治水対策の大きな柱は河川を拡張することや川底を深く掘る事があげられる。都市化した住宅街では用地の取得などは現実的に困難。川底を深く掘削するには根継ぎ作業が必要。本県では災害に強い川作りのために「中国・九州北部豪雨災害対策」としてどのような河川整備を考えているのか。

A.樋井川は川沿いに多くのビルが建ち、流域の市街化も進んでいる状況を踏まえ、既設護岸の補強を行いながら、浚渫(しゅんせつ)を中心とした対策を実施したいと考えている。また早期に効果を発現させるため、平成21年7月中国・九州北部豪雨災害の対策として、来年度から5ヵ年で河川改修事業を行う予定である。

Q.福岡市との治水での連携

総合的な治水対策を行う上で、下水道等を管理する福岡市との連携も重要。今回、内水と外水が複雑に組み合ったことで被害が想定を大きく超えた。今回の豪雨による河川増水や氾濫によって内水を河川に流す事すら出来ない状態。福岡市長との連携は。

A.樋井川流域では都市化が進展しているため、総合的な治水対策が必要であると認識している。福岡県で行う河川整備と福岡市が行う下水道整備をはじめ、防災情報の充実についても連携を密にする必要がある。また、流域の雨水流出抑制についても市と連携を図りながら、地域市民団体などとも協力し、効果的な方策について検討していく。

県議会は8日も一般質問が行われ、豪雨に備えた河川改修や防災情報のメール配信などの問題が取り上げられた。

【樋井川の改修】  
麻生渡知事は、昨年7月の豪雨で氾濫した、福岡市の樋井川の河川改修を5年間での方針を示した。民主・県政クラブの守谷正人民の質問に答えた。

樋井川は豪雨で護岸が崩れ、周辺地域で床上浸水などの被害が発生した。知事は「川沿いに多くのビルが立ち並び、流域の市街化も進んでいるため河川の拡幅は大変難しい状況。既設の護岸の補強やしゅんせつを中心

## 5年間で樋井川(福岡市)改修

県議会一般質問、知事答弁  
今月末までに 防災無線43市町村に

Q.「洪水ハザードマップ」について

昨年の決算特別委員会で福岡市が作成した「洪水ハザードマップ」の浸水想定地図が実際の被害地域と大きくずれていたことを指摘しました。福岡市との協議は。

A.現在の地図は河川以外の、側溝や下水道があふれて浸水するという現象が反映されていないため、昨年7月の豪雨を踏まえて、このような現象の地図への反映の仕方や策定の工程などについて、市と協議を開始したところです。



災害の早期復興のために現場の視察を行う。



樋井川の河川改修についての要望書を受け取る。

Q.「樋井川流域治水に関する市民提言」について

「樋井川流域市民会議」は地元住民たちが中心となって治水を考える新しい取り組みなどを話し合ってきた。この会議の提言について知事の所見は。

A.実際に災害を体験した住民からの意見が盛り込まれており、貴重なものだと考えている。総合的な治水対策は、市民レベルの協力が不可欠。今後は提言も参考にしながら、市や市民会議とも連携して対策を進めていきたい。

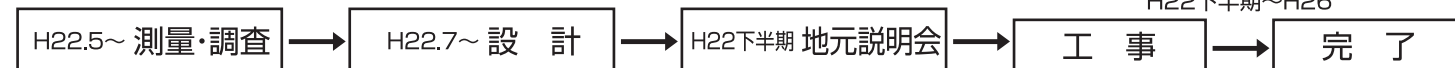
Q.本県の雨水流出抑制策について

都市を急激に襲う「ゲリラ豪雨」に対応するには河川改修や下水道整備だけに頼る治水では限界に達しているのが現状。河川への流出抑制を図ることで洪水を緩和する総合的な取り組みについて県と市が連携を行っていくことが必要。本県では雨水流出抑制策は。

A.公園や学校などの公共施設を利用した雨水の貯留や浸透、道路における透水性舗装、既存の溜池の有効利用などのほかに、個人住宅や集合住宅での一時的な雨水貯留の有効策。

樋井川は都市部の河川としては、流域に溜池が多いという特徴があるので、その活用も有効な対策と考えられる。今後、市と連携を図り、また地域市民団体とも協力して、効果的な方策を、具体的に検討していきたい。

◆今後のスケジュール(予定)



※測量をはじめ、護岸の状況等を把握するために、5月から現地にて作業を開始します。

## 緊急報告

昨年の10月の県議会決算特別委員会で樋井川沿いのパラペットの改修工事(城南区田島4丁目)を知事に強く要望しました。その結果3月にパラペットの途切れた部分の補強を実施することが出来ました。これにより外水氾濫を抑える効果があります。

県単独緊急対策事業として樋井川の河床の浚渫(3850㎡・トラック700台分)と土壌によるパラペットの高上げを今取水期までに実施する事になりました。



改修前



改修後(現在)